

平成 31 年度 施設自己評価

- A-1-(1)-① 保育所の保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した保育課程を編成している。  
a) よく編成されている b) 改善が必要である c) 編成されていない ( a )
- A-1-(1)-② 乳幼児のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。  
a) 十分配慮されている b) 改善が必要である c) 配慮されていない ( a )
- A-1-(1)-③ 1. 2歳児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。  
a) 十分配慮されている b) 改善が必要である c) 配慮されていない ( a )
- A-1-(1)-④ 3歳児以上児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。  
a) 十分配慮されている b) 改善が必要である c) 配慮されていない ( a )
- A-1-(1)-⑤ 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されている。  
a) 十分配慮されている b) 改善が必要である c) 配慮されていない ( b+ )
- A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境が整備されている。  
a) 十分整備されている b) 改善が必要である c) 整備されていない ( a )
- A-1-(2)-② 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような環境が整備されている。  
a) 十分整備されている b) 改善が必要である c) 整備されていない ( a )
- A-1-(2)-③ 子どもが主体的に活動し、様々な人間関係や友達との協同的な体験ができるような人的・物的環境が整備されている。  
a) 十分整備されている b) 改善が必要である c) 整備されていない ( a )
- A-1-(2)-④ 子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような人的・物的環境が整備されている。  
a) 十分整備されている b) どちらかといえば整備されている c) 整備されていない ( a )
- A-1-(2)-⑤ 子どもが言葉豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が整備されている。  
a) 十分整備されている b) 改善が必要である c) 整備されていない ( a )
- A-1-(3)-① 保育士等が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が図られている。  
a) 十分図られている b) 図られていない c) 自己評価に取り組んでいない ( a )
- A-2-(1)-① 子ども一人ひとりを受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われている。  
a) 適切に行われている b) 改善が必要である c) 行われていない ( a )
- A-2-(1)-② 障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。  
a) 十分な配慮がみられる b) 改善が必要である c) 配慮されていない ( a )
- A-2-(1)-③ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。  
a) 十分配慮されている b) 改善が必要である c) 配慮されていない ( a )
- A-2-(2)-① 子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。  
a) 適切に実施している b) 改善が必要である c) 実施していない ( a )
- A-2-(2)-② 食事を楽しむことができる工夫をしている。  
a) 工夫している b) 改善が必要である c) 工夫をしていない ( a )
- A-2-(2)-③ 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。  
a) 十分工夫されている b) 改善が必要である c) 工夫がされていない ( a )
- A-2-(2)-④ 健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映されている。  
a) 十分反映されている b) 改善が必要である c) 反映されていない ( a )
- A-2-(3)-① アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。  
a) 適切に対応している b) 改善が必要である c) 適切に対応していない ( a )



- A-2-(3)-② 調理場、水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような体制が整備されている。  
 a) 適切に実施されている    b) 改善が必要である    c) 適切に実施されていない    ( a )
- A-3-(1)-① 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。  
 a) 十分な取組をしている    b) 改善がみつようである    c) 具体的な取組をしていない    ( a )
- A-3-(1)-② 家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行っている。  
 a) 行っている    b) 改善が必要である    c) 行っていない    ( a )
- A-3-(1)-③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けている。  
 a) 十分に設けている    b) 改善が必要である    c) 設けていない    ( b )
- A-3-(1)-④ 虐待に対応できる保育所内の体制の下、不適切な養育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び虐待の予防に努めている。  
 a) 積極的に努めている    b) 改善が必要である    c) 努めていない    ( a )

総評

日頃から保育園へのご協力感謝致します。

平成31年度では、これまでの「子ども主体の保育」を探求できる年であった。施設見学には、相模大野の rissy kids きらり、世田谷仁慈、長野県あそびの森あきわ、栃木県認定こども園さくらなど、保育環境から実践まで、今現場で課題となっているところのヒントもたくさん持ち帰り、保育実践に活かせるよう職員間で周知していった。

また、私自身、この3年間保育を見直し、保育改革を行ってきた経緯を全国で発表し、講師である玉川大学の大豆生田先生からたくさんのアドバイスを頂きました、保育士の頑張りを認めてもらえるきっかけとなったので大変貴重な時間となった。

さらに、3歳児のちんすこうプロジェクトでは第14回 食育コンテストのフォトストーリー部門で大賞を頂いた。保育者も実践が認められ自信につながることに期待したい。保育者も自己発揮できる環境をこれからも整えていきたい。

今後も他施設の見学や外部講師による園内研修などを充実させ保育の質の向上へ向けて自己研鑽していく。

さて、保育士確保が課題となる昨今、前年度は4名の保育士の退職者がいたことは大変残念である。人材育成や業務改善も課題とする中、やはり保育者の社会的地位の確立は公定価格の見直し、保育士配置基準の見直しを国がしていただくことが直近の課題と認識している。

新たに新人職員2名、育休復帰職員もいるので保育の質を高めることができそうだ。

保育園の給付は、保育士が何人いようが最低基準の給付費のみで運営を余儀なくされる現状。

処遇改善もあるが、まだまだ十分とは言えない。日本保育協会、私立保育連盟、那覇市園長会などの団体で保育士の配置基準の見直しや公定価格の見直しを訴え続けていく。

年明け、インフルエンザ感染拡大があり那覇市や保健所への報告を行い、園内での保健衛生の見直しを行った。

保護者の皆さまのご協力を得ながら今後も感染症予防に努めていく。

保護者の皆さまと地域の皆さまに支えられていることに感謝し、子ども達の健やかな育ちにこれからも寄り添っていききたい。



分科会の講師の先生より  
 たくさんのアドバイスとヒントを頂きました!  
 貴重な時間でした!

第45回 保育総合研修会(神戸)  
 第7分科会にて  
 保育の見直し・質の高い保育を目指してと題し、  
 これまでの取り組みを発表しました!